

▶ イノシシの繁殖様式



冬	春	夏	秋
発情・交尾期	出産・授乳期		性成熟と群れ行動
■ 11～2月頃に交尾 ■ 妊娠期間は約4か月 ■ オスはメスを探して行動範囲が広がる	■ 5月頃に出産する ■ 年1回、平均で4～5頭 ■ メスは2歳頃に初産する	■ 授乳期間は約4か月 ■ コドモには縞模様がある（ウリ坊） ■ 死亡率が高く半数近くが死ぬ	■ 生後1年半程度で性成熟する 〈オス〉 生後1～2年で単独生活 〈メス〉 血縁関係のある群れで生活

- 年1回、平均4～5頭を出産
（年2回の出産は基本的にできない）
- 出産は2歳以上のメス
- 繁殖率は高いが、死亡率も高い

▶ イノシシの繁殖様式

- ・オス成獣の行動域の拡大
- ・繁殖による別群れとの個体間接触の増加
- ・オス成獣の追払いによるオス亜成獣の群れからの離脱

- ・出産による個体数の増加
- ・授乳の終了に伴う移行抗体の消失

⇒新規感染リスクのあるイノシシ
（感受性個体の増加）



冬	春	夏	秋
発情・交尾期	出産・授乳期		性成熟と群れ行動
■ 11～2月頃に交尾 ■ 妊娠期間は約4か月 ■ オスはメスを探して行動範囲が広がる	■ 多くは5月頃に出産する ■ 年1回、平均で4～5頭 ■ メスは2歳頃に初産する	■ 授乳期間は約4か月 ■ コドモには縞模様がある（ウリ坊） ■ 死亡率が高く半数近くが死ぬ	■ 生後1年半程度で性成熟する 〈オス〉 生後1～2年で単独生活 〈メス〉 血縁関係のある群れで生活

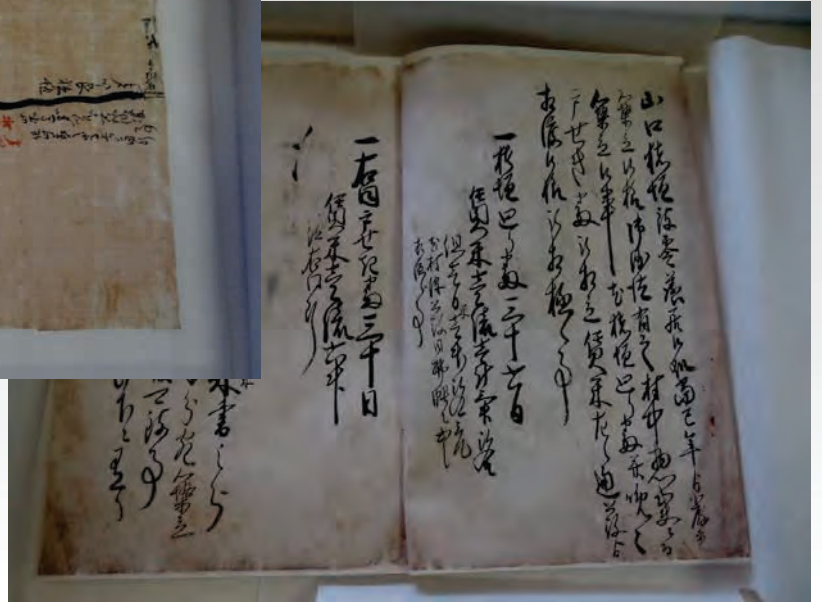
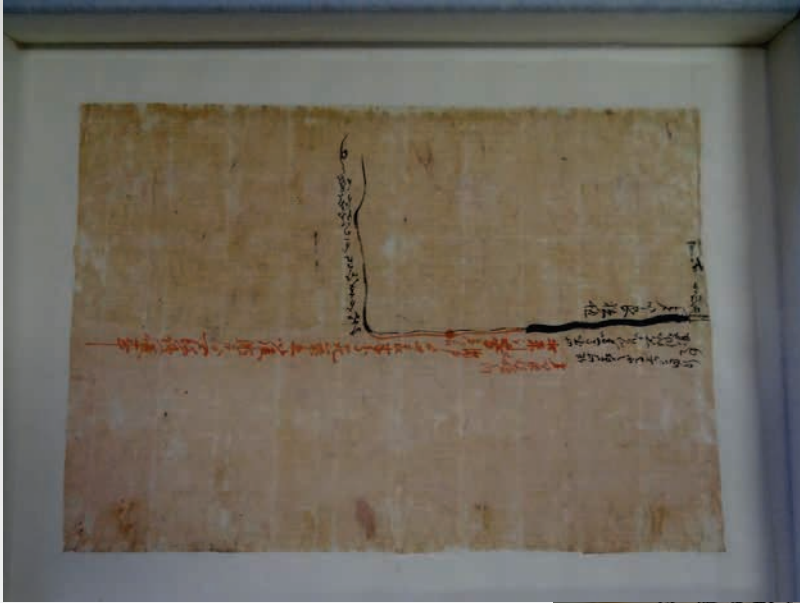
被害対策の基本



▶ 全国各地に設置されていたシシ垣



▶ シシ垣の管理体制が記された古文書



見回りや修復に担当を決めて賃金などを供出していた

▶ シシ垣周辺でのイノシシ捕獲



今で言うところの捕獲に資する柵としての機能もあった

▶ 獣害対策の過去と現在の比較



■ 物理的な防御



■ 柵周辺での捕獲



■ 地域での長中期計画



+ 自然資源の利用による環境整備が行われていた

▶ 総合的な被害対策の必要性

イノシシ・シカに農作物を食べられないために・・・

① 侵入防止

- ・ WM柵など防護柵の設置

② 生息環境整備

- ・ 誘引物除去
(野菜クズや放任果樹の処分)
- ・ 緩衝帯整備
(草刈りやタケの伐採、強度間伐)
- ・ 家畜放牧による省力的草地管理

③ 個体数調整・・・ジビエ等利用

- ・ 成獣、加害個体を中心とした捕獲
- ・ 捕獲隊などの捕獲体制整備

泥棒に入られないように・・・

・ 戸締りの徹底

- ・ 貴重品を放置しない
- ・ 街灯を増やして暗がり減らす
- ・ 空き家をなくす

- ・ 警官による泥棒の逮捕
- ・ 見回り活動など



併せてニホンザルは追払い(≠ジビエ)も非常に効果的